

# アルバイトの目的と将来のキャリア意識がアルバイトの肯定感に及ぼす影響 —中国人日本語学校生の場合—

黄 美蘭

## 1. 問題の所在と研究目的

日本学生支援機構(2019)における「平成30年度外国人留学生在籍状況調査」によると、日本語教育機関に在籍する留学生数は90,079名であり、前年度に比べて14.5%増加した。そのうち、中国人留学生数は28,511名で全体の31.7%を占め、ベトナム(全体の33.6%)に次いで2番目に多い。また、「平成27年度私費外国人留学生生活実態調査」のデータによると、在日私費留学生の主な収入源は「アルバイト」と「仕送り」であり、私費留学生の74.8%がアルバイトに従事している(日本学生支援機構, 2016)。アルバイトに従事する目的として最も多いのが「日本での生活を維持するために必要だから」(71.1%)であり、次いで、「日本人との交流等良い機会になるから」(21.5%)、「教養・娯楽等に於ける費用を得るため」(4.7%)になっている。このようなことから、在日私費留学生の多くは日本での生活のためにアルバイトに従事することを余儀なくされていると考えられる。

日本語学校と大学・大学院や専門学校などの高等教育機関とでは、学習内容や学習環境が異なっている。日本語学校は日本語の習得が主な学習内容であり、学校内で接触できる日本人は、日本語教師や日本人職員に限られており、同年代の日本人学生との交流はほとんど行われぬ。そのため、日本語学校生にとってアルバイト先は日本社会や日本人と接触し交流する重要な場所の1つであると言える。しかし、「アルバイト先の日本人との接触はその場だけの雑談程度の接触であり、それより親密な接触はなく」(加賀美, 1994)、日本語学校生がアルバイト先において否定的な体験をしており、日本人に対してネガティブな感情を抱いていることが以前より指摘されている。例えば、莫(1992)は、親日家であった中国人日本語学校生がアルバイト先の店長から受けた差別によって、嫌日家になってしまった事例を紹介している。また、中国人日本語学校生と日本人との接触において、日本語学校の中では差別的な対応をされることはないが、アルバイト探しやアルバイト先での待遇面で被差別的な体験を持っている(山田, 2010)と指摘されている。さらに、加賀美(1994)は、中国人日本語学校生の異文化接触における不満の決定因は、アルバイト先に由来するとしており、中国人日本語学校生はアルバイト先での処遇や日本人の態度が差別的であるという不満が最も多いとしている。黄(2010)は、中国人日本語学校生がアルバイト先で抱く被差別感の内容について半構造化インタビューを行い、KJ法(川喜田, 1967)を援用して分

---

<sup>1</sup> 先行研究では日本語学校に通う中国人留学生を「中国人就学生」としているが、2010年7月から実施された在留資格「留学」・「就学」の一本化に基づき、本研究では日本語学校に通う中国人留学生を「中国人日本語学校生」と表記することにする。

類・整理した。そこでは、中国人日本語学校生はアルバイト先において日本人の上司から差別を受けたと思うことが最も多く、特に、「中国人または外国人という理由で、アルバイトを拒否された」ことに対して被差別感を抱くことが多いと述べられている。このように、多くの私費留学生在がアルバイトに従事しているが、アルバイト先の出来事は様々であり、日本語学校生はアルバイト先での処遇により被差別感という心理的問題を抱えることがある。

一方で、留学生<sup>2)</sup>はアルバイト活動を通して日本語能力の向上や自己成長などを実感し、アルバイトの経験をポジティブに捉えることがある。例えば、日本語学校生にとってアルバイト先は、唯一加工の程度の低い状況で目標言語話者と接触できる場所であり、アルバイトを日本語学習に有効な学習リソースの1つであると捉えている(小島, 2003)。飯塚(2005)は、中国人日本語学校生の動機づけの要因において、アルバイト先で日本人に関することで嫌な体験をしているにもかかわらず、それを否定的に捉えるのではなく、むしろ肯定的に考え「日本語のやる気」につなげていたことを述べている。また、譚・渡邊・今野(2009)は、中国人留学生と日本語学校生を対象に、アルバイトに従事する動機づけが仕事満足感に及ぼす影響について検討し、「一生懸命仕事をするのが楽しいから」「アルバイトの仕事内容が面白いから」などの内発的動機づけを持ってアルバイトに従事する場合、仕事の満足感が高いとしている。さらに、調査対象者が日本語学校生ではないが、黄(2015)は大学や大学院に在籍している中国人女子私費留学生在を対象に、アルバイトに従事する目的とアルバイトを通して得たと認識する肯定感について半構造化インタビュー調査を行い、詳細に検討した。インタビューデータについて、KJ法を援用して分析を行い、中国人女子私費留学生在はアルバイトを通して、「自己認識」「日本社会・日本人への認識」「生活手段」などを獲得したと認識していると述べている。また、アルバイトの目的とアルバイトの肯定感の関連について検討し、アルバイトの目的が「自己満足」などの内発的動機づけの場合、アルバイトを通して「人間関係」が構築されたこと、「日本人・日本社会について理解」したことなど、「日本社会・日本人への認識」が得られたことを肯定的に評価しているとしている。このように、アルバイトの経験については、「生の日本語」の習得に有利であり、また、アルバイトに従事する目的によってアルバイト活動に対する捉え方が異なることが推測できる。これまでに、日本語学校生がアルバイトに従事した目的やアルバイトを通して得たと認識する肯定感などについて詳細に検討した先行研究は見当たらない。

さらに、留学生にとってアルバイトの経験は、学業に励みながら旅費や学習にかかる費用を賄うと同時に、その地域の労働市場を知り、新たなネットワークを形成する機会になる(志甫, 2015)。OECD(2014)の調査では、在学期間中のアルバイトの経験が留学生の卒業・修了後のキャリアに正の影響を及ぼすとしており、在日外国人留

---

<sup>2)</sup> 日本語学校と大学・大学院、専門学校などの高等教育機関に在籍している、私費留学生在及び国費留学生在を指す。

学生を対象にした閻・堀内（2017）の調査においても、アルバイト活動は社会化を促す有益な活動であり、留学後の就職を考える良い機会になることが指摘されている。例えば、黄（2018）は、大学・大学院に在籍している中国人男子私費留学生を対象に、アルバイト経験と将来のキャリア意識について調査を行い、将来日本で「起業」「就職」など、日本との関わりを持ち続けようと考えている場合は、アルバイトの経験が将来のキャリアに影響を及ぼすと考えているが、「帰国して就職」など、日本との関わりを持つとは考えていない場合は、アルバイトの経験をあまりポジティブに捉えない傾向があることを明らかにしている。日本語学校生の場合、日本語学校を修了後日本の大学や大学院、専門学校などの高等教育機関に進学する場合が最も多く（日本語教育振興協会, 2018）、高等教育機関に在籍する留学生は、日本の大学や大学院などで学業を終え、その後、日本で企業等に就職する傾向が強い（法務省入国管理局, 2018）。しかし、これまでに日本語学校生を対象に将来のキャリア意識について詳細に検討した研究は管見の限り見当たらない。また、上述のようにアルバイトの経験が将来のキャリア意識に影響を与えているが、両者の関連について明らかにした研究も僅少である。

以上のように、日本語学校生はアルバイト活動を通して日本語能力の向上を実感し、アルバイト先で様々な年齢層や価値観を持っている日本人と交流することを通して、日本人の労働価値観や職務スタイルなどについて学ぶことができると考えられる。また、アルバイトに従事する目的や将来のキャリア意識によってアルバイトの経験に対する捉え方が異なることが推測される。そこで、本研究では、日本語学校に通う中国人私費留学生（以下、中国人日本語学校生）に焦点を当て、アルバイトに従事した目的（以下、アルバイトの目的）とアルバイトを通して自分自身が得たと認識する肯定感（以下、アルバイトの肯定感）、及び将来のキャリア意識について質問紙調査を行い、それらの関連を明らかにし、中国人日本語学校生の日本における生活や進路についての相談・指導の際に有効なデータを提供することを目的とする。研究課題は次の4点である。

研究課題 1：中国人日本語学校生のアルバイトの目的はどのようなものか

研究課題 2：中国人日本語学校生のアルバイトの肯定感はどのようなものか

研究課題 3：中国人日本語学校生の将来のキャリア意識はどのようなものか

研究課題 4：中国人日本語学校生のアルバイトの目的と将来のキャリア意識はアルバイトの肯定感にどのような影響を及ぼすのか

## 2. 研究方法

### 2.1 調査方法と分析対象者

2017年12月～2018年2月にかけて、中国人日本語学校生を対象に、中国語版の質問紙を配布し回収した。中国人日本語学校生114名から回答が得られた。そのうち、回答に著しく不備があったものを分析対象から除いた結果、104名からの回答（有効回答率91.2%）が有効であった。本研究では、有効回答の中で、来日後アルバイトの

経験のある 68 名のデータを分析対象とした (表 1)。

分析対象者の内訳については、男性 31 名 (45.6%)、女性 37 名 (54.4%) であり、年齢は 10 代 13 名 (19.1%)、20 代 55 名 (80.9%)、平均年齢 22.3 歳であった。また、来日前の学歴については、大学卒業 31 名 (45.6%)、高校卒業 25 名 (36.8%)、大学在学中 2 名 (2.9%)、その他 3 名 (4.4%)、不明 7 名 (10.3%) であった。さらに、日本語能力に関しては、日本語能力検定試験 N1 合格者が 31 名 (45.6%)、N2 が 20 名 (29.4%)、N3 が 3 名 (4.4%)、N5 が 2 名 (2.9%)、その他が 2 名 (2.9%)、不明が 10 名 (14.7%) であった。岩男・萩原 (1988) による日本語能力の自己評定<sup>3)</sup>については、満点 13 点中、6 点 2 名 (2.9%)、7 点 2 名 (2.9%)、8 点 1 名 (1.5%)、9 点 5 名 (7.4%)、10 点 6 名 (8.8%)、11 点 5 名 (7.4%)、12 点 18 名 (26.5%)、13 点 21 名 (30.9%)、不明 8 名 (11.8%)、平均 11.4 点であった。

表 1 分析対象者の属性

性別	男性 31 名 (45.6%)、女性 37 名 (54.4%)
年齢	10 代 13 名 (19.1%)、20 代 55 名 (80.9%)
来日前の学歴	大学卒業 31 名 (45.6%)、高校卒業 25 名 (36.8%)、大学在学中 2 名 (2.9%)、その他 3 名 (4.4%)、不明 7 名 (10.3%)
日本語能力試験	N1 合格 31 名 (45.6%)、N2 合格 20 名 (29.4%)、N3 合格 3 名 (4.4%)、N5 合格 2 名 (2.9%)、その他 2 名 (2.9%)、不明 10 名 (14.7%)
日本語能力自己評価 (満点 13 点)	6 点 2 名 (2.9%)、7 点 2 名 (2.9%)、8 点 1 名 (1.5%)、9 点 5 名 (7.4%)、10 点 6 名 (8.8%)、11 点 5 名 (7.4%)、12 点 18 名 (26.5%)、13 点 21 名 (30.9%)、不明 8 名 (11.8%)

## 2.2 質問紙の構成と分析方法

質問紙はアルバイトの目的、アルバイトの肯定感、及び将来のキャリア意識を問う項目と属性を問う項目から構成される。アルバイトの目的については、黄 (2015; 2018) のインタビューデータや日本学生支援機構 (2016) のデータを参考に 17 項目を作成した。質問紙では、アルバイトの目的について項目を示し、「来日後、あなたはなぜアルバイトに従事しましたか。それぞれの文を読んで、あなたの考えに最も当てはまるものを 1 つ選んで、○で囲んでください」と指示した。また、アルバイトの肯定感については、黄 (2015; 2018) のインタビューデータを参考に 45 項目を作成した。質問紙では「アルバイトを通して得たものとして、あなたの考えに最も当てはまるものを 1 つ選んで、○で囲んでください」という質問文に続き項目を提示した。さらに、将来のキャリアについての意識に関しては、加賀美 (2008) と岡村 (2013) を参考に 12 項目を作成した。質問紙では、「あなたが将来したい仕事について、あなたの考えに最

<sup>3)</sup>日本語能力の自己評定は、「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の各領域にわたり難易度の異なる 13 項目を設定し、そのうち日本語で行うことができるという回答 (正回答) の数を留学生の日本語能力の指標としている。これらの項目はガットマン尺度を構成しており、その再現性係数は .94 という高い数値を示すことが確かめられている。

も当てはまるものを1つ選んで、○で囲んでください」という質問文に続き項目を示した。なお、アルバイトの目的、アルバイトの肯定感、及び将来のキャリア意識のそれぞれの項目に対して「まったく当てはまらない(1点)」から「非常に当てはまる(5点)」の5段階評定で回答を求めた。属性に関しては、来日前の学歴や日本語能力などについての項目を設定した。質問紙は日本語で作成し、その後中国語に翻訳した。翻訳文の正確性を客観的に検証するためにバックトランスレーション法を用い、予備調査でその適切さが確かめられた。

対象データは SPSS による統計的手法で分析を行った。アルバイトの目的とアルバイトの肯定感、及び将来のキャリア意識の因子構造については、主因子法・プロマックス回転による探索的因子分析を行った。また、アルバイトの目的と将来のキャリア意識がアルバイトの肯定感に及ぼす影響については、アルバイトの目的と将来のキャリア意識を独立変数、アルバイトの肯定感を従属変数として、ステップワイズ法による重回帰分析を行った。

### 3. 結果と考察

#### 3.1 アルバイトの目的に関する因子分析の結果と考察

中国人日本語学校生のアルバイトの目的の構造を明らかにするために、因子分析を行った。因子負荷が低い項目(40以下)や複数の因子にまたがって高い負荷量を示す項目を削除した結果、4因子が抽出された(表2)。

第I因子は「学外の日本人と交流するため」「アルバイトをして初めて日本社会との接点が得られるから」などの4項目からなり、『日本社会・日本人との交流』( $\alpha=.857$ )と命名した。第II因子は「家族の負担を軽減するため」「生活費を得るため」などの3項目からなり、『経済的理由』( $\alpha=.871$ )と命名した。第III因子は「アルバイトの内容が将来の仕事に役に立つと思ったから」「アルバイトの内容と趣味が合致しているから」の2項目からなり、『心理的満足』( $\alpha=.555$ )と命名した。第IV因子は「友だちに誘わ

表2 アルバイトの目的の因子分析結果

	I	II	III	IV	項目 平均値	項目 標準偏差	因子平均値 (標準偏差)
<b>第I因子 日本社会・日本人との交流 (<math>\alpha=.857</math>)</b>							
学外の日本人と交流するため	<b>.808</b>	.032	.053	-.075	3.279	1.208	
アルバイトをして初めて日本社会との接点が得られるから	<b>.804</b>	-.115	.066	.167	3.926	1.027	3.603
日本文化を体験するため	<b>.793</b>	-.024	-.072	-.185	3.294	1.160	(0.935)
アルバイトをすることで日本語能力が伸びると思ったから	<b>.718</b>	.105	-.071	.062	3.912	1.061	
<b>第II因子 経済的理由 (<math>\alpha=.871</math>)</b>							
家族の負担を軽減するため	.039	<b>.913</b>	.003	.085	3.618	1.316	
生活費を得るため	-.026	<b>.907</b>	-.162	-.129	3.162	1.410	3.299
貯金をするため	-.026	<b>.767</b>	.143	.147	3.118	1.252	(1.183)
<b>第III因子 心理的満足 (<math>\alpha=.555</math>)</b>							
アルバイトの内容が将来の仕事に役に立つと思ったから	.056	.030	<b>.765</b>	.124	2.809	1.427	2.754
アルバイトの内容と趣味が合致しているから	-.097	-.060	<b>.528</b>	-.217	2.716	1.324	(1.146)
<b>第IV因子 消極的理由 (<math>\alpha=.555</math>)</b>							
友だちに誘われたから	.014	.112	.010	<b>.696</b>	2.403	1.436	2.567
特に明確な目的はなかった	-.024	-.215	-.259	<b>.410</b>	2.750	1.297	(1.138)
	I	—	.231	.251	—	—	—
	II	—	—	.262	—	—	—
	III	—	—	—	—	—	—
	IV	—	—	—	—	—	—

れたから」「特に明確な目的はなかった」の2項目からなり、『消極的理由』( $\alpha=.555$ )と命名した。また、各項目の回答は5段階評定で求めたため、各因子の平均値が3を超えると、アルバイトに従事した目的として「当てはまる」と回答した中国人日本語学校生が多いことを表す。各因子の平均値において、『日本社会・日本人との交流』( $M=3.603, SD=0.935$ )が最も高かった。さらに、下位項目において、平均値が最も高いのは、『日本社会・日本人との交流』の項目の「アルバイトをして初めて日本社会との接点を得られるから」( $M=3.926, SD=1.027$ )であり、次いで、「アルバイトをすることで日本語能力が伸びると思ったから」( $M=3.912, SD=1.061$ )であった。以上の結果から、多くの中国人日本語学校生は日本社会との接触や日本人との交流を求めアルバイトに従事しており、アルバイトを通して日本語力を上達させようとしている様子が窺えた。

ここ数年、中国の経済発展に伴い、日本ででの生活費や学費は親からの「仕送り」で賄う中国人学生が増えている。本研究においても、『経済的理由』は『日本社会・日本人との交流』より因子の平均値が低く、本研究の中国人日本語学校生は「生活費を得るため」などの経済的理由に比べて、「学外の日本人と交流するため」などの日本社会や学外の日本人と交流するためにアルバイトに従事する傾向が強いことがわかった。本研究の対象者である中国人日本語学校生は、「アルバイトをすることで日本語能力が伸びる」と思っており、アルバイト先の日本人との交流を通して、教科書では学べない「生の日本語」を学ぶためにアルバイトに従事する傾向が強いことが示された。

### 3.2 アルバイトの肯定感に関する因子分析の結果と考察

中国人日本語学校生のアルバイトの肯定感の構造を調べるために、因子分析を行った。因子分析は3.1と同様の手続きで行った。その結果、6因子が抽出された(表3)。

表3 アルバイトの肯定感の因子分析結果

	I	II	III	IV	V	VI	項目 平均値	項目 標準偏差	因子平均値 (標準偏差)
<b>第I因子 日本人の職務態度への学び (<math>\alpha=.883</math>)</b>									
日本人の勤勉な仕事態度について学ぶことができた	.974	-.023	.017	.020	.000	-.049	3.254	1.035	3.269
日本人の真面目な仕事態度について学ぶことができた	.812	-.051	.045	-.016	.119	.045	3.309	1.069	(0.990)
日本人の仕事に対する責任感の強さについて学ぶことができた	.632	.228	-.003	-.045	-.142	.072	3.250	1.189	
<b>第II因子 将来のキャリアへの認識 (<math>\alpha=.810</math>)</b>									
アルバイトで学んだものを将来の仕事先で活かせると思う	-.073	.943	-.124	-.006	.071	-.077	3.632	1.021	3.269
アルバイトの経験は将来の仕事に役に立つと思う	.171	.684	.094	.008	-.099	-.031	3.426	1.176	(0.973)
将来自分に合う仕事についての認識を持つようになった	.082	.528	.034	.029	.171	.100	2.761	1.220	
<b>第III因子 日本語能力の向上 (<math>\alpha=.765</math>)</b>									
日本語が上達した	-.067	-.085	.893	.104	.007	.083	3.721	0.990	3.779
日本語の敬語が上達した	-.049	.263	.734	-.074	-.047	.054	3.471	1.165	(0.824)
アルバイト先で使う日本語が学べた	.263	-.183	.518	.014	.061	-.169	4.147	0.815	
<b>第IV因子 金銭の獲得 (<math>\alpha=.856</math>)</b>									
生活費が得られた	.000	-.023	-.010	.907	.003	-.040	3.691	1.123	3.640
経済的負担が少なくなった	-.028	.034	.080	.833	-.007	-.011	3.588	1.054	(1.018)
<b>第V因子 ネットワークの構築 (<math>\alpha=.869</math>)</b>									
学外の友だちができた	.031	-.092	-.005	-.012	.897	.097	3.382	1.107	3.382
ネットワークが広がった	-.045	.197	.025	.010	.817	-.074	3.382	1.107	(1.041)
<b>第VI因子 学業へのポジティブな姿勢の獲得 (<math>\alpha=.721</math>)</b>									
専門知識の勉強に一生懸命取り組むようになった	-.024	-.094	.087	-.147	.048	.834	3.353	1.019	3.338
将来の仕事のために勉強に励むようになった	.079	.047	-.157	.218	-.019	.692	3.324	1.099	(0.936)
	I	-.483	.530	.180	.460	.501			
	II	-	-.409	.295	.508	.561			
	III	-	-	.338	.401	.363			
	IV	-	-	-	.219	.437			
	V	-	-	-	-	.571			
	VI	-	-	-	-	-			

第Ⅰ因子は「日本人の勤勉な仕事態度について学ぶことができた」「日本人の真面目な仕事態度について学ぶことができた」などの3項目からなり、『日本人の職務態度への学び』( $\alpha=.883$ )と命名した。第Ⅱ因子は「アルバイトで学んだものを将来の仕事先で活かせると思う」「アルバイトの経験は将来の仕事に役に立つと思う」などの3項目からなり、『将来のキャリアへの認識』( $\alpha=.810$ )と命名した。第Ⅲ因子は「日本語が上達した」「日本語の敬語が上達した」などの3項目からなり、『日本語能力の向上』( $\alpha=.765$ )と命名した。第Ⅳ因子は「生活費が得られた」「経済的負担が少なくなった」の2項目からなり、『金銭の獲得』( $\alpha=.856$ )と命名した。第Ⅴ因子は「学外の友だちができた」「ネットワークが広がった」の2項目からなり、『ネットワークの構築』( $\alpha=.869$ )と命名した。第Ⅶ因子は「専門知識の勉強に一生懸命取り組むようになった」「将来の仕事のために勉強に励むようになった」の2項目からなり、『学業へのポジティブな姿勢の獲得』( $\alpha=.721$ )と命名した。また、アルバイトの目的と同様に、各項目の回答は5段階評定で求めたため、因子の平均値が3を超えると、アルバイトを通して得たと認識する肯定感として「当てはまる」と回答した中国人日本語学校生が多いと考えられる。各因子の平均値において、すべての因子の平均値が3を超えており、最も高いのは『日本語能力の向上』( $M=3.779, SD=0.824$ )であった。さらに、下位項目において、平均値が最も高いのは、『日本語能力の向上』の項目の「アルバイト先で使う日本語が学べた」( $M=4.147, SD=0.815$ )であった。つまり、多くの中国人日本語学校生はアルバイトを通して、日本語力が上達したこと、特に、アルバイト先で使用する日本語能力が向上したことを肯定的に捉えていた。アルバイト先で使用する日本語の表現は限られているが、教室内で学習できる日本語とは異なり、日本社会の人々とのコミュニケーションに必要な日本語が学べたことを肯定的に評価している様子が窺える。中国人日本語学校生の多くは「アルバイトをすることで日本語能力が伸びる」と思ってアルバイトに従事しているため、アルバイトを通して日本語能力が向上したことを肯定的に捉えているのではないだろうか。

### 3.3 将来のキャリア意識に関する因子分析の結果と考察

中国人日本語学校生の将来のキャリア意識の構造を調べるために、因子分析を行った。因子分析は3.1と同様の手続きで行った。その結果、5因子が抽出された(表4)。

第Ⅰ因子は「日本で起業したい」「中国で起業したい」の2項目からなり、『起業志向』( $\alpha=.661$ )と命名した。第Ⅱ因子は「中国と日本以外の第三国の大学院に進学したい」「中国と日本以外の第三国で就職したい」の2項目からなり、『第三国志向』( $\alpha=.668$ )と命名した。第Ⅲ因子は「将来の仕事についてまだ決められない」「将来の見通しを持っていないため、将来の仕事が漠然としている」の2項目からなり、『将来不透明性』( $\alpha=.604$ )と命名した。第Ⅳ因子は「中国で日本企業に就職したい」「日本で中国と事業関連のある会社に就職したい」の2項目からなり、『日中関連企業への就職志向』( $\alpha=.708$ )と命名した。第Ⅴ因子は「日本でとりあえず就職したい」「どんな企業でもいいので日本で就職したい」の2項目からなり、『日本での就職志向』( $\alpha=.561$ )

表4 将来のキャリア意識の因子分析結果

	I	II	III	IV	V	項目 平均値	項目 標準偏差	因子平均値 (標準偏差)
<b>第I因子 起業志向 (<math>\alpha=.661</math>)</b>								
日本で起業したい	<b>.980</b>	.035	.080	-.104	.138	2.338	1.128	2.324
中国で起業したい	<b>.521</b>	.120	-.189	.225	-.220	2.309	1.261	(1.025)
<b>第II因子 第三国志向 (<math>\alpha=.668</math>)</b>								
中国と日本以外の第三国の大学院に進学したい	.013	<b>.932</b>	.028	-.053	.095	2.309	1.200	2.272
中国と日本以外の第三国で就職したい	.086	<b>.670</b>	-.025	.006	-.106	2.235	1.186	(1.070)
<b>第III因子 将来不透明性 (<math>\alpha=.604</math>)</b>								
将来の仕事についてはまだ決められない	-.108	.129	<b>.885</b>	.111	-.011	3.206	1.204	2.882
将来の見通しを持っていないため、将来の仕事が漠然としている	.116	-.154	<b>.553</b>	-.085	-.098	2.559	1.138	(1.008)
<b>第IV因子 日中間連企業への就職志向 (<math>\alpha=.708</math>)</b>								
中国で日本企業に就職したい	.049	-.032	.072	<b>.800</b>	-.140	2.868	1.145	3.103
日本で中国と事業連携のある会社に就職したい	-.029	-.023	-.034	<b>.667</b>	.302	3.338	1.141	(0.979)
<b>第V因子 日本での就職志向 (<math>\alpha=.561</math>)</b>								
日本でとりあえず就職したい	-.062	.048	-.118	.041	<b>.865</b>	3.618	1.107	2.949
どんな企業でもいいので日本で就職したい	.377	-.122	.085	.061	<b>.442</b>	2.279	1.104	(0.907)
	I	—	.010	.061	.119	.015		
	II		—	-.039	.174	.058		
	III			—	.059	-.289		
	IV				—	-.048		
	V					—		

と命名した。また、アルバイトの目的やアルバイトの肯定感と同様に、各項目の回答は5段階評定で求めたため、因子の平均値が3を超えると、将来のキャリア意識として「当てはまる」と回答した中国人日本語学校生が多いと考えられる。各因子の平均値において、最も高いのは『日中間連企業への就職志向』( $M=3.103, SD=0.979$ )であった。さらに、下位項目において、平均値が最も高いのは、『日本での就職志向』の項目の「日本でとりあえず就職したい」( $M=3.618, SD=1.107$ )であり、次いで、『日中間連企業への就職志向』の項目の「日本で中国と事業連携のある会社に就職したい」( $M=3.338, SD=1.141$ )であった。前述の通り、中国人日本語学校生は日本語学校修了後、日本の大学や大学院、専門学校などの高等教育機関に進学するケースが多く、高等教育機関を卒業・修了してからは、日本で企業等に就職する傾向が強い。本研究の対象者においても、日本の高等教育機関で留学生生活を終え、将来的には日本で企業等に就職することを希望する傾向が強い様子が窺えた。また、日本での留学経験を活かし、中国と日本の架け橋になるような仕事をしたいと思っていることが示された。

### 3.4 アルバイトの目的と将来のキャリア意識がアルバイトの肯定感に及ぼす影響

中国人日本語学校生のアルバイトの目的と将来のキャリア意識がアルバイトの肯定感に及ぼす影響を調べるために、アルバイトの目的と将来のキャリア意識を独立変数、アルバイトの肯定感を従属変数とする、ステップワイズ法による重回帰分析を行った(表5)。表中の数字は標準偏回帰係数( $\beta$ )であり、 $R^2$ は決定係数である。

まず、アルバイトの肯定感の『日本人の職務態度への学び』には、アルバイトの目的の『日本社会・日本人との交流』『心理的満足』が正の影響を及ぼしていた。つまり、日本社会や日本人と交流することやアルバイトの内容が将来の仕事に役に立つと思ってアルバイトに従事する場合、アルバイトを通して日本人の勤勉な仕事態度について学んだことを肯定的に捉えることを意味する。「学外の日本人と交流するため」「アル

表5 アルバイトの目的と将来のキャリア意識、アルバイトの肯定感の重回帰分析結果

		アルバイトの肯定感					
		日本人の職務態度への学び	将来のキャリアへの認識	日本語能力の向上	金銭の獲得	ネットワークの構築	学業へのポジティブな姿勢の獲得
アルバイトの目的	日本社会・日本人との交流	.380 **	.056	.572 ***	.235 ***	.178	.032
	経済的理由	-.097	.023	-.080	.665 **	.025	.125
	心理的満足	.309 **	.681 ***	.045	.099	.403 **	.203
	消極的理由	.122	.084	.020	-.073	-.210	-.502 **
将来のキャリア意識	起業志向	-.019	-.247 **	-.134	-.161 *	-.215	-.066
	第三回志向	.101	-.068	.055	.084	-.127	.153
	将来未決定	.153	.061	-.005	-.097	-.151	-.128
	日中関連企業への就職志向	-.051	-.017	.226 *	.055	-.194	-.192
	日本での就職志向	.103	.213 *	.204 *	.085	.207	.342 **
	$R^2$	.281 ***	.622 ***	.522 ***	.625 ***	.162 ***	.228 ***

\*\*\* $p < .001$  \*\* $p < .01$  \* $p < .05$  (数値は標準偏回帰係数)

バイトをして初めて日本社会との接点が得られるから」など、日本社会での体験を目的とする場合、勉学志向が比較的強く(岩田, 2005)、また、「アルバイトの内容と趣味が合致するから」など、内発的動機づけを持つほど肯定的な結果と関連する(Ryan, Deci & Grolnick, 1995) ため、アルバイト先では日本人から学ぶことが多いと認識し、日本人の勤勉で真面目な仕事態度を肯定的に捉えているのではないだろうか。

次に、アルバイトの肯定感の『将来のキャリアへの認識』には、アルバイトの目的の『心理的満足』が正の影響、将来のキャリア意識の『起業志向』が負の影響、『日本での就職志向』が正の影響を及ぼしていた。これは、アルバイトの内容が将来の仕事に役に立つと思ってアルバイトに従事し、将来、日本で就職したいと思っているが、起業することは考えていない場合、アルバイトを通して将来の仕事に対する明確なビジョンを持つようになったと認識することを意味する。「アルバイトをすると達成感が得られるから」など、自己決定程度の高い内発的動機づけを持つ場合、仕事の満足感が高く(譚・渡邊・今野, 2009; 加藤・伊藤・石橋・小石, 2002)、現在従事しているアルバイトに満足していると考えられる。また、将来、日本で企業等に就職することを希望する場合、アルバイトを通して学んだことを将来の日本でのキャリアに結びつけて考えることが容易になると思われる。

また、アルバイトの肯定感の『日本語能力の向上』には、アルバイトの目的の『日本社会・日本人との交流』が正の影響、将来のキャリア意識の『日中関連企業への就職志向』『日本での就職志向』が正の影響を与えていた。つまり、日本社会や日本人と交流するためにアルバイトに従事し、将来、日本企業や中国と事業関連のある企業に就職することを希望する場合、アルバイトを通して日本語能力が向上したと認識していると捉えられる。「アルバイトは日本語を実際に使用できる重要な学習リソース」(小島, 2003) であり、アルバイト先で日本人と交流する際に、学校で学んだ日本語を使用でき、また、日本人から「生の日本語」を教えてもらえるため、日本語能力の向上を実感していると考えられる。さらに、将来、中国や日本と事業の関連がある企業や日本で就職する場合、職務に必要な日本語力が求められるため、アルバイトを通して日本語能力が向上したことを肯定的に捉えていると推測できる。

さらに、アルバイトの肯定感の『金銭の獲得』には、アルバイトの目的の『日本社

会・日本人との交流』『経済的理由』が正の影響、将来のキャリア意識の『起業志向』が負の影響を与えていた。これは、アルバイトを通して生活費を得て、家族の負担を軽減することや日本社会、日本人と交流することを目的とし、将来、起業することを考えていない場合、アルバイトを通して「生活費が得られた」などの金銭面の収入を肯定的に捉えることを意味する。経済的理由などの外発的動機づけを持ってアルバイトに従事する場合、アルバイトを通して報酬が得られたことを肯定的に捉えていると考えられる。また、将来、中国や日本で起業したいと考えている場合、自己資金が必要であるが、アルバイトを通して得た収入では起業できるだけの資金が得られないと考えるため、「経済的負担が少なくなった」など、生活に必要な金銭を得たという肯定感に留まっているのではないだろうか。

アルバイトの肯定感の『ネットワークの構築』には、アルバイトの目的の『心理的満足』が正の影響を与えていた。これは、アルバイトの内容が自分自身の趣味と合致すると認識してアルバイトに従事している場合、アルバイトを通して人間関係が構築されたことを肯定的に捉えることを意味する。「アルバイトの内容が趣味と合致するから」などの内発的動機づけを持ってアルバイトに従事する場合、職務内容や対人関係における職務満足感が高い(加藤・伊藤・石橋・小石, 2002)ため、アルバイト先で構築されたネットワークを肯定的に捉えていると考えられる。また、日本語学校では日本人教師や日本人職員以外の日本人との接触や交流がほとんどないため、中国人日本語学校生にとって、アルバイト先は学校以外で日本人と接触・交流し、日本でのネットワークを広げられる重要な場所の1つである。そのため、アルバイト先で構築されたネットワークを肯定的に捉えているのではないだろうか。

最後に、アルバイトの肯定感の『学業へのポジティブな姿勢の獲得』には、アルバイトの目的の『消極的理由』が負の影響、将来のキャリア意識の『日本での就職志向』が正の影響を及ぼしていた。つまり、アルバイトに積極的に関わり、将来、日本で就職することを希望している場合、アルバイトを通して「将来の仕事のために勉強に励むようになった」と肯定的に捉えていた。アルバイトに対する積極的な態度が学業に対する主体的な学びに繋がり、また、日本で就職したいと考えている場合、日本語力が欠かせないため、日本語の学習や専門知識の勉強に一生懸命取り組むようになったことを肯定的に捉えていることが示された。

#### 4. まとめと総合的考察

本研究では、中国人日本語学校生を対象にアルバイトに従事した目的とアルバイトを通して自分自身が得たと認識する肯定感、及び将来のキャリア意識について調査を行った。また、アルバイトの目的と将来のキャリア意識がアルバイトの肯定感に及ぼす影響について明らかにした。ここでは、まず、因子分析の結果についてまとめ、次に、重回帰分析の結果を中心に総合的考察を行う。

まず、因子分析の結果についてまとめる。中国人日本語学校生のアルバイトの目的として、『日本社会・日本人との交流』『経済的理由』『心理的満足』『消極的理由』の

4 因子が得られた。その中で、『日本社会・日本人との交流』を目的としてアルバイトに従事することが最も多いことが示された。中国の経済発展とともに、アルバイトに従事する中国人学生の割合が少なくなっているが、本研究の調査対象者は、日本社会との接触や日本人との交流などの社会的動機づけを持ってアルバイトに従事する傾向が強いことが明らかになった。また、中国人日本語学校生のアルバイトの肯定感として、『日本人の職務態度への学び』『将来のキャリアへの認識』『日本語能力の向上』『金銭の獲得』『ネットワークの構築』『学業へのポジティブな姿勢の獲得』の6 因子が得られた。その中で、アルバイトを通して「日本語能力が向上」したことを最も肯定的に捉えていることが示された。日本語学校での主な学習内容は日本語の習得であり、学校で学んだ日本語をアルバイト先で使用することができるため、日本語能力が向上したと実感しやすいと思われる。また、アルバイトを通して日本社会の人々と接触し、日本人とのコミュニケーションに必要な「生きた日本語」を勉強できたことを最も肯定的に捉えていることが示された。さらに、将来のキャリア意識について、『起業志向』『第三国志向』『将来不透明性』『日中関連企業への就職志向』『日本での就職志向』の5 因子が得られた。その中で、『日中関連企業への就職志向』が最も高い得点を示し、多くの中国人日本語学校生は日本で学業を終え、将来的には、中国や日本と関わりのある会社に就職したいと希望していることが明らかになった。

次に、重回帰分析の結果を中心に考察を行う。第一に、アルバイトの目的が『日本社会・日本人との交流』の場合、アルバイトを通して獲得した『日本人の職務態度への学び』『日本語能力の向上』『金銭の獲得』を肯定的に捉えていることが示された。その中で、『日本語能力の向上』を認識する傾向が最も強く ( $\beta=.572, p<.001$ )、アルバイト先の日本人との交流を通して、日本語能力が向上したと認識する様子が窺えた。中国人女子大学生・大学院生を対象にした先行研究(黄, 2015)では、中国人女子私費留学生はアルバイト先での日本語は決まった言葉が多く、そこで学んだ日本語は大学キャンパス内の学生との交流や日常生活で話す日本語にはあまり役に立たないと認識すると述べている。一概に比較することはできないが、アルバイトを通して日本語能力が向上したと肯定的に捉えることは、本研究の対象者である中国人日本語学校生の特徴であると言えるだろう。今後は、日本語学校生と大学・大学院生の比較検討を行い、それぞれの特徴をより詳細に分析する必要がある。

第二に、アルバイトの目的が『心理的満足』の場合、アルバイトを通して得た『日本人の職務態度への学び』『将来のキャリアへの認識』『ネットワークの構築』を肯定的に捉える傾向が見られた。その中で、特に、『将来のキャリアへの認識』を肯定的に捉える傾向が強く ( $\beta=.681, p<.001$ )、「アルバイトの内容が将来の仕事に役に立つ」など、内発的動機づけを持ってアルバイトに従事する場合、「将来、自分に合う仕事についての認識を持つようになった」など、アルバイト活動を通して将来のキャリアについて考えるようになったことを肯定的に捉えることが示された。内発的動機づけなど、自己決定程度の高い動機づけを持つ場合、心理的幸福感や満足度が高い(Ryan & Deci, 2000) ため、中国人日本語学校生はアルバイトを通して将来のキャリアについて考え

るようになったことに高い満足感を得ていると考えられる。

第三に、将来のキャリア意識が『日本での就職志向』の場合、アルバイトを通して得た『将来のキャリアへの認識』『日本語能力の向上』『学業へのポジティブな姿勢の獲得』を肯定的に評価していることが明らかになった。その中で、特に、『学業へのポジティブな姿勢の獲得』を最も肯定的に評価しており ( $\beta=.342, p<.01$ )、日本で学業を終え、「どんな企業でもいいので日本で就職したい」など、日本で就職することを希望している場合、学業に励むようになったことを肯定的に捉える傾向が強いことが示された。福岡 (2015) によると、大学・大学院に在籍している留学生在が日本で就職する理由として「学んだ語学や専門を生かしたい」が最も多い。つまり、日本での就職志向が高い中国人日本語学校生はアルバイトの経験が将来の仕事に有利だと考え、日本語能力の向上や専門知識などを取得するために学業に対する態度がポジティブになったことを肯定的に評価していると考えられる。

以上のように、本研究ではアルバイトの目的について、『日本社会・日本人との交流』『心理的満足』という社会的動機や内発的動機を持つ場合、アルバイトを通して様々な内容の肯定感を認識することがわかった。自己決定程度の高い動機づけを持つほど、質の高い学習につながる (Grolnick & Ryan, 1987) ため、本研究においても内発的動機や社会的動機を持ってアルバイトに従事する場合、アルバイトを通して日本人の職務態度について学んだことや将来のキャリアについて考えるようになったこと、日本語能力が向上したことなどを肯定的に捉える様子が窺えた。また、将来のキャリア意識について、『日本での就職志向』を持つ場合、アルバイトを通して自分自身が獲得したと認識する肯定的側面が多かった。中国人日本語学校生の将来のキャリア意識が日本語能力の向上や学業へのポジティブな態度に正の影響を与えていることが示された。

本研究の意義は、中国人日本語学校生を対象に日本社会との関わりが強いアルバイト活動に焦点を当て、アルバイトの目的やアルバイトの肯定感について詳細に分析を行いその全体像を明らかにした点である。また、日本語学校や日本の高等教育機関を卒業・修了してからの将来のキャリア意識について明らかにしたことにも意義がある。日本語教育機関に在籍する留學生の数は年々増加傾向にあり、アルバイトに従事する日本語学校生も増えつつある。日本語学校生のアルバイト活動や将来のキャリア意識について詳細に検討することは、日本社会における日本語学校生の現状を理解し、日本語学校生の学習面や生活面のサポート及び進路指導において重要であると考えられる。

## 5. 今後の課題

本研究は限られたデータの分析結果であるため、過度な一般化は避けた。今後は、中国人日本語学校生と大学や大学院などの高等教育機関に在籍している中国人私費留學生との比較・検討を行いたい。また、アルバイトの内容や職場に対するコミットメント、アルバイトに従事する時間数などがアルバイトの肯定感に及ぼす影響についてより詳細に検討したい。

## 参考文献

- Grolnick, W.S., & Ryan, R.M. (1987) Autonomy in children's learning: An experimental and individual difference investigation. *Journal of Personality and Social Psychology*, 52, 890-898.
- 法務省入国管理局 (2018) 「平成 29 年における留学生の日本企業等への就職状況について」 <http://www.moj.go.jp/content/001271107.pdf> (2019 年 1 月 22 日閲覧)
- 福岡昌子 (2015) 「留学生の就職に関する意識調査とビジネス日本語教育への示唆」『三重大学国際交流センター紀要』 10, 1-18.
- 加賀美常美代 (1994) 「異文化接触における不満の決定因—中国人就学生の場合」『異文化間教育』 8, 117-126.
- 加賀美常美代 (2008) 「日韓の女子大学生の国際交流意識とキャリア形成の比較：お茶の水女子大学の国際意識調査から」『お茶の水女子大学人文科学研究』 4, 107-123.
- 加藤司・伊藤崇達・石橋寛子・小石寛文 (2002) 「自己決定理論に基づく動機づけのタイプと職務満足感との関連性—アルバイト学生を対象に—」『神戸大学発達科学部人間科学研究センター』 9 (2), 1-9.
- 川喜田二郎 (1967) 『発想法 創造性開発のために』中央公論新社.
- 黄美蘭 (2010) 「日本語学校に通う中国人学生の被差別感と原因帰属との関連—アルバイト先の事例を中心に—」『お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学論叢』 13, 59-67.
- 黄美蘭 (2015) 「アルバイトの目的とアルバイトを通して得た肯定感：中国人女子私費留学生の場合」『お茶の水女子大学人文科学研究』 11, 125-134.
- 黄美蘭 (2018) 「中国人男子私費留学生のアルバイト経験とキャリア意識」『お茶の水女子大学人文科学研究』 14, 169-181.
- 小島祐子 (2003) 「学習リソースとしてのアルバイト—就学生を対象として—」『桜美林国際学論集 Magis』 8, 199-213.
- 莫邦富 (1992) 『ニッポン就学生事情—ジパングをめざした中国人たち』アルク日本語ボックス.
- 日本学生支援機構 (2016) 「平成 27 年度私費外国人留学生生活実態調査」  
[https://www.jasso.go.jp/about/statistics/ryuj\\_chosa/\\_icsFiles/afieldfile/2016/12/02/ryujchosa27p00.pdf](https://www.jasso.go.jp/about/statistics/ryuj_chosa/_icsFiles/afieldfile/2016/12/02/ryujchosa27p00.pdf) (2019 年 1 月 22 日閲覧)
- 日本学生支援機構 (2019) 「平成 30 年度外国人留学生在籍状況調査結果」  
[https://www.jasso.go.jp/about/statistics/intl\\_student\\_e/2018/\\_icsFiles/afieldfile/2019/01/16/datah30z1.pdf](https://www.jasso.go.jp/about/statistics/intl_student_e/2018/_icsFiles/afieldfile/2019/01/16/datah30z1.pdf) (2019 年 1 月 22 日閲覧)
- 日本語教育振興協会 (2018) 「平成 29 年度日本語教育機関実態調査」  
<https://www.nisshinkyo.org/article/pdf/overview05.pdf> (2019 年 1 月 22 日閲覧)
- 岡村郁子 (2013) 「帰国高校生の「帰国経験を活かす」ことに対する意識とその関連要因—キャリアとしての帰国経験の検討—」『お茶の水女子大学人文科学研究』 9, 145-156.

- Organisation for Economic Co-operation and Development (OECD, 2014) International Migration Outlook, Paris: OECD Publisher.
- Ryan, R.M. & Deci, E.L. (2000) Self-Determination Theory and the Facilitation of Intrinsic Motivation, Social Development, and Well-being. *American Psychologist*, 55, 68-78.
- Ryan, R.M., Deci, E.L. & Grolnick, W.S. (1995) Autonomy, relatedness, and the self : Their relation to development and psychopathology. In D.Cicchetti & D.J.Cohen(Eds.), *Developmental psychopathology: Theory and methods*, 618-655.
- 志甫啓 (2015) 「外国人留学生の受入れとアルバイトに関する近年の傾向について」『日本労働研究雑誌』 57(9), 98-115.
- 譚紅艷・渡邊勉・今野裕之 (2009) 「動機づけの自己決定性が在日中国人留学生・就学生の仕事満足感に及ぼす影響」『目白大学心理学研究』 5, 117-123.
- 山田陽子 (2010) 『中国人就学生と中国帰国子女ー中国から渡日した子どもたちの生活実態と言語』 風媒社.
- 飯塚往子 (2005) 「日本語学校に通う留学生の動機づけの要因ー半年間のネットワークの変化からー」『小出記念日本語教育研究会論文集』 13, 39-56.
- 閻琳・堀内孝 (2017) 「在日外国人留学生を対象としたアルバイト動機づけ尺度の作成」『パーソナリティ研究』 26(2), 99-108.
- 岩男寿美子・萩原滋 (1988) 『日本で学ぶ留学生ー社会心理学的分析』 勁草書房.
- 岩田弘三 (2005) 「大学生のアルバイト目的と学業」『武蔵野大学現代社会学部紀要』 6, 11-22.

【付記】本研究はJSPS 科研費 16K16863 の助成を受けたものである。

(こう びらん・首都大学東京国際センター)